

何処を閉じしや

二十三回生 佐怒賀（片山）弘子

新宿の街夕立があらいはじめたりジャンプ傘ひらきひとりに戻る

母よりの首長瓶のひび割れて母の声洩るる雪ふかき朝

何処を閉じしや四方に凸ある黒き鍵持らつづけいる亡き夫の鍵

わたしだけは裏切りませんというようにカサブランカの反りきわまりぬ

風の行き水の音するぶな林ここで待ら合わせをしたくなる

絵の中に吹いているような風にあい内子の街に木蠟買うた

透ける色ビジョナリーミントのスカーフに風のふれいて地下都市を行く

